

スコットランド国立公文書館



今年の9月に北京で開催されるICA国際会議にむけて、ICAでは防災対策ガイドラインを策定している。そのための委員会が昨年11月に英国のエディンバラで開催された折りに、スコットランド・レコードオフィスの新しく建設されたレポジトリであるトーマス・トムソン・ハウスを訪問した。

パンフレットによれば、「スコットランド・レコードオフィス (Scottish Record Office) はイギリス諸島のうちで、最も多くのスコットランドの公文書を持ち、かつ、最も適した保存施設として地方自治体の文書及び個人からの文書を受け入れている。その範囲は12世紀から20世紀の文書をカバーしており、形態としては中世の羊皮紙から現代のマイクロフィッシュを含んでいる。それらは、政府の正式文書や裁判記録から個人の手紙、日記まであり、また地方史には不可欠な各地の文書や財産記録から、数千の手書きや版画のスコットランドの都市や地方の変化を刻んだ地図や計画図、さらにスコットランド鉄道の公文書、産業、商業の団体、慈善団体、その他の公共団体の記録などがある。特にスコットランドの山岳地域、諸島地域の現代史を学ぶのに重要な資料の宝庫である。」

さて、どこでもそうであるけれどもスコットランドでも文書館が手狭となり、2050年までの収納スペースを確保するために、中心市街地から車で20分程離れたところに、19世紀に近代文書館の基礎を築いたトーマス・ト

ムソンを記念して命名された新館トーマス・トムソン・ハウスが1994年に建設され、1995年5月に開館した。1.82haの敷地に床面積5,217㎡の収納棟と1,380㎡の事務棟が、直角に接しているけれども別棟として建てられている。

収納棟は、外壁は無窓で3重壁、屋根はさや屋根が設置されている。空調システムが稼働しているけれども、基本的にシステム依存ではなく、建物自身の質量による安定した環



境維持を目的としている。収納室はそれぞれ520㎡に区画され、区画同士の延焼阻止は2時間、階同士の延焼阻止は4時間で設計され、消火装置は警報とスプリンクラーシステムである。館の設計に当たっては、英国、フランス、米国の公文書館を調査するとともに、コブレンツにあるドイツ国立公文書館を参考とした。

スコットランド・レコードオフィス・ニュースレター23号(1995年夏、秋号)には、開館式にプリンセスを招いて、館長のパトリック・カデルが得意げに館の模型を説明している写真が載っている。彼はフランス語を堪能とする長身の、とても素敵な男性である。

(小川雄二郎 国際連合地域開発センター)